

さえずり

令和3年3月21日発行



子供たち・会の皆さんとともにつくれた リコーダーコンテスト

会長 根津 江美子
（十日町市立上野小学校長）

私が新潟県リコーダーコンテストに初めて参加したのは、新採用の年でした。昭和60年です。その頃は、諸先輩先生方が30～50名以上の大編成の子供たちを連れてきていました。初任校のリコーダークラブは、部活ではなく週1回のクラブ活動での参加でした。部活は違う部の担当で、練習は朝や昼休みでした。今からは到底考えられない状況でした。他校の大編成の素晴らしい音に驚き、自分の力のなさを痛感した3年間でした。

その後、山の学校に転勤。極小規模校だったので、そこでは3年生以上全員でも5～6人だったので、重奏で参加をしました。人数が少なかったのがここからです。山の学校の少ない子供たちとの音楽づくりは、生涯忘れられないものです。

そして、大きな編成ができる学校へ転勤してから17年間、本格的なリコーダーの曲づくりをしました。小学校4年生から部活を始めて3年間続けた子供は、ほとんどが音の違いを分かるようになります。6年生では下の学年の子に指導しながらパート練習ができるようになるのです。これはリコーダーという繊細な楽器ならではのことで、リコーダーの素晴らしさだと思うのです。音楽科出身でなく、指揮法も分からない私は、子供たちとの合図として指揮をしていました。国語科出身の私は、スタッカートは、「針でつつくように」とか、伸ばす音の音程を下げないように「神様にお供えをするように音を大事にして伸ばすよ。」など、言葉と動作を使ってイメージを持たせていました。コンテストが近づくにつれ、子供たちの音が変わっていくのが分かり、本当に楽しく充実した日々でした。

リコーダーコンテストでは、運営側としても様々な貴重な経験をしました。アナウンスはたぶん20年くらいやったのではないのでしょうか。先輩方から教えてもらいながら、いつしか自分たちが中心になって動かしていました。皆さんがボランティアで役員を引き受けてくれて、何も言わなくても以心伝心で、スムーズな運営ができるのが、この会の自慢です。この会に所属して育てていただき、本当によかったと思います。

新潟県のリコーダーは全国でも立派な足跡を残してきました。このリコーダーコンテストの灯を絶やさず、リコーダーの素晴らしさを伝え続けてもらいたいと思います。

<お知らせ>ホームページが新しくなりました。情報をできるだけ早く皆様にお届けしたいと考えています。
アドレスは、<http://nrs.xbs.jp> です。どうぞご覧ください。

新潟県リコーダーコンテストに参加して

南魚沼市立北辰小学校 吉田 泉

今年の「辰の子リコーダー課外」のメンバー募集は、9月に行われました。昨年の経験者2名に加え新しく7名の希望がありました。そのメンバーが話し合っ、コンテストとフェスティバルに分かれて出場することを決めました。曲目を決める際、リコーダー教育研究会の先生に相談させていただき、楽譜を紹介していただいたり、実際に吹いていただいたりしました。新しいリコーダーの世界をご教授いただいたことは、私にとってとても幸せでした。新型コロナウイルス感染予防のため、市内の学校の部活動が11月いっぱい中止になり、12月から活動開始となりました。子供達の「家で練習して休み時間に合わせよう。コンテストに参加したい。」という意思を尊重し、心苦しかったのですが、仕上がり途中の音源を提出させていただきました。フェスティバル部門は、締め切りに間に合わせることができず、後日特別に、リコーダー教育研究会の先生方から講評をいただきました。温かい講評に、演奏を披露する機会がなかった子供達はとても喜んでいました。「中学校に行っても、辰の子リコーダー課外に来て演奏したい。」と話す子もいました。音楽は、何をしても無駄になることはありません。一つ一つの経験が次の新しい音楽に繋がっているはずです。来年は、子供達の気持ちに沿った活動ができるよう計画的に活動を進めていきたいと思えます。新潟県リコーダー教育研究会会長根津江美子様を始め、温かい講評をいただいた先生方には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後のコンテスト

十日町市立貝野小学校 佐藤 康子

「笑顔を大事に、楽しんで演奏」

これはリコーダー部の子どもたちが、いつも心がけてきたことです。そこから自分たちのチーム名を「ニコリコ」と決め、閉校までの残された日々を大切にしながら活動してきました。

昨年は三年越しの県大会金賞受賞で、子どもたちは閉校を目前にし、大きな盛り上がりを見せました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のために全国大会が中止になってしまいました。悔いを残して卒業していった先輩達のためにも、みんなの心を一つにして、また金賞を目指そうと話し合っ、決めました。貝野小学校リコーダー部最後のメンバーとして、みんなの期待に応えたいという思いもあったと思います。夏休みの練習を熱心に行い、自分たちの演奏を録画してはみんなで聴き、良いところと改善点を挙げ練習に生かすという努力を積み重ねました。こうしてみんなで自分たちの音や響きを創り出していく過程が、最後の県大会での金賞につながったのだと思います。子どもたちの熱意と明るさの中に、リコーダーを楽しみ音楽を愛する心を感じることができました。

これまで貝野小学校リコーダー部を励まし支え、指導してきてくださった皆様、大変ありがとうございました。これからも「貝野サウンド」を心に響かせながら、リコーダーと共に歩んだ日々を大事にしていきたいです。

連載最終回によせて

リコーダー奏者
太田光子

新潟県リコーダー教育研究会のみなさま、こんにちは。
リコーダー奏者の太田光子です。

これまでリコーダーのテクニックのこと、音色のこと、指導方法のこと等々、みなさまから寄せられたご質問につきまして、連載してまいりました。これまでお話ししてきたことの全ては、結局この2点を追求するためであると思っています。

- 1) リコーダーが本来持っている音色の美しさ
- 2) 曲を理解し、リコーダーでそれを自分の言葉として語り、歌うこと

これは、私がリコーダーを演奏する際に最も大切にしていることでもあります。
具体的な方法等に関しましてはこれまでの「さえずり」H27-3号からR元-3号までをご参照いただければと思いますが、難しい箇所が多くて演奏時に余裕がなくなる時ほど、まず基本となる「良い音」で吹くことを心がけてみましょう。

楽器のタイプにより差もありますし好みはいろいろあるでしょうが、プラスチックリコーダーを含む、一般的なバロックタイプの「基本となる良い音」とは、「安定した響きと深さを感じさせる、透明で澄んだ伸びのある音」だと思っています。
これを基本としてそこから曲の中の様々な表情に応じて、例えば音色をくすんだ感じにしたり、ハリのある輝かしい音にしていったり、変化させていくと、その差も出やすく効果があるでしょう。逆にこの基本がないと、その変化も感じにくく、非常に頼りなくよりどころのない音楽になってしまうでしょう。

リコーダーを吹く際、つい必死になりすぎて自分の音が聴けていない、ということが起こりがちなのですが、まずは曲の中の音を一つを取り出して「良い音」が鳴っているか、自分の音をよく聴いてみましょう。アンサンブルの場合には、個々がそのような音を出しているか、さらにそれらの音が重なり合ってハーモニーとして美しく鳴っているか、要所要所で一度立ち止まってよく聴いて、その響きの心地よさをじっくり味わってみてくださいね。

リコーダーの長所は、子供から大人まで気軽に親しむことができ、ソロでもアンサンブルでも楽しむことができる点でしょう。新潟県リコーダー教育研究会の先生方 & 関係者の皆さまの、リコーダー普及のためのご尽力、そして指導されている先生方の熱意に、感服しております。数年前の新潟県リコーダーコンテストの閉会式で、副会長の嶋見靖之先生が「演奏を聴かせてもらうことは、『プレゼントをもらう』こと」とお話をされていたことが大変印象的に残っております。今後もリコーダーの美しい音色を響かせ、多くの方々に素晴らしいプレゼントをし続けていっていただきたいと思っております。また新潟県リコーダー教育研究会のみなさまにお会いできる時、演奏を聴かせていただける時を、心から楽しみにしております。



<令和2年1月例会 講師は太田先生>

小原惇先生を偲ぶ

元会長 皆川 昌雄

令和3年2月22日、新潟県リコーダー教育研究会の創設者小原惇先生が86歳で逝去されました。

先生は情熱の人でした。昭和49年に県リコ研を立ち上げ、すぐに第1回の夏季合宿研修、そして翌年には第1回のコンテストを実施されました。中心となって会を運営しながら、まだ若いということで会長にはならず、「事務局代表」という立場で外部との折衝にも当たられました。会長には、時の中越音研の会長に兼務をお願いしました。ちなみに小原先生が県リコ研の会長になられたのは、十数年後の平成3年、校長になってからのことです。

生まれたばかりの県リコ研に、第6回全日本リコーダー教育研究大会実施の要請がありました。県リコ研の組織はまだ未整備で、全日本からの連絡相談等は小原先生に集中します。ほとんど一人で折衝を重ね、大会を成功に導いた先生の仕事ぶりは、伝説となっています。

時は流れて平成15年、長岡で2度目の全日本リコーダー教育研究大会（第31回大会）が行われました。小原先生は退職後でしたが、今度は全日本リコーダー教育研究会副会長として、長岡市の関係校長への連絡調整等、特に難しい部分を精力的にこなしてくださいました。「リコ研への最後の御奉公かな。」と笑っておられた。その笑顔を鮮明に覚えています。

棺には、リコーダーと一緒に入れたと、奥様に伺いました。リコーダーを愛し、リコーダー教育の充実・発展に情熱をもって取り組まれた先生にふさわしいと思いました。…合掌…

<編集後記>

令和2年1月16日、国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されました。3月以降学校は臨時休業になりました。学校再開後は各市町村教育委員会が作成したガイドラインや文部科学省が作成した衛生管理マニュアルに基づき、感染拡大防止を徹底した学校生活となりました。衛生管理マニュアルではリコーダーは感染の可能性が高い学習活動に位置付けられました。また公民館などの使用は施設使用ガイドラインに基づいて行われ、ここでもリコーダー演奏活動が難しくなりました。さらに移動や感染拡大地域との往来自粛が求められました。

このような状況から、今年度は総会を紙上で行い、例会は開催せず、県リコーダーコンテストは録画審査で行いました。コンテストでは、困難な状況の中を活動を工夫し参加いただいた団体がいくつもありました。取組に敬意を表します。

感染拡大防止の取組はこれからも続きます。しかし工夫次第でリコーダー演奏はできます。リコーダー演奏による感染防止の知見は全日本リコーダー教育研究会ホームページに掲載されています。感染を正しく恐れながら新たなリコーダー演奏の歩みを続けていきましょう。

太田光子先生の連載は本号で終了します。長きにわたりリコーダーを楽しむヒントをたくさんいただきました。温かい激励もいただきました。本当にありがとうございました。

そしてご多用の中玉稿をお寄せいただきました皆様に心から感謝申し上げます。（嶋見）